

「リサイクル陶器『緒-Tomo』」

｜ 南山大学 ｜ 総合政策学部 石川良文ゼミ

南山大学総合政策学部の学生が、リサイクル陶土を使った新製品を開発した。衰退する地元・瀬戸市の陶磁器産業を活性化させるために、取り組んでいるものだ。「緒-Tomo(おとも)」と名付けられた商品シリーズは、環境配慮型商品に関心の高い若い女性をターゲットにすることによって、購買者層の拡大をめざしている。



地域の課題解決を 目的とする課外活動

リサイクル陶器の商品開発に取り組んでいるのは、石川良文ゼミの3年生20人。石川ゼミでは、環境保全と地域経済振興を両立する公共政策について研究している。総合政策学部では、問題把握から解決までの思考法の修得をめざしている。そのためには、文献調査やデータ分析などの座学だけでなく、体験の中で養うべきだという石川教授の考えのもと、地域の課題に取り組む課外プロジェクトに積極的だ。

「地域社会への貢献がプロジェクトの大前提。地域の人々を巻き込んだ活動になるため、真剣に取り組める有志のみの参加としている」と石川教授は言う。学生が自分たちでプロジェクトテーマを設定し、石川教授が全体のプロセスを指導するという形で進められる。2012年はキャンパスがある瀬戸市の問題に取り組むことにした。

新製品の開発により 窯業の活性化をめざす

テーマの設定は、参加者が各自で瀬戸市が抱える問題を調べ、発表することから始めた。挙げられた問題の一つに、同市の主要産業である窯業の衰退があった。市役所の担当者や窯業関係者にヒアリングを行った結果、陶土の枯渇が原因の一つにあり、対応策とし

て陶磁器のリサイクルシステムがあることがわかった。市民・行政・窯業関係者が協力し、不要になった陶磁器を市が回収、業者が環境負荷の少ない陶土として加工・再利用するというものだ。しかし、システムや技術があるにもかかわらず、つくられる製品が従来どおりの食器類に限られ、普及が進んでいない。色や風合いでは普通の陶土にはかなわないからだ。そこで、リサイクル陶土のメリットを生かした新製品を開発し、販売ルートの開拓・購買層の拡大によって、窯業を活性化させるというテーマを設定した。

新製品は、従来の購買層と異なる若い世代をターゲットに捉えた。特に環境に対する意識が高く、自然志向が強い20~30代の女性を想定。雑貨店で商品案についてのリサーチを開始した。ターゲットと同年代の卒業生にヒアリングを行い、全員でアイデアを出した。商品案が絞り込まれた段階で窯元を訪ね、形状や強度、コストについて商品化が可能かどうか相談した。

販売ルートの開拓も並行して行っ



商品案の参考にするため、陶器づくりを見学する学生。

た。地元の雑貨店に交渉し、委託販売を依頼。これにあわせて広報展開も考え、プレスリリースを準備した。

企画した商品案をもとに地元の若手陶芸家らの協力を得て、試作。アンケートや価格の分析を行い、最終的にジュエリースタンドや卵形のアロマディフューザー、アクセサリーなど11種類を商品化した。

政策の実現に必要な 知識や能力を修得

リーダーの増田綾香さんは、売れる商品を考え、それを実現させる過程に最も苦勞したという。「マーケティングの専門知識を学んできたわけではないので、アンケート調査や分析の手法は石川教授から指導を受けた。チーム内で意見がぶつかることや、良いアイデアがあっても賛同してくれる陶芸家が見つからないこともあった」と話す。

石川教授は言う。「環境・経済・社会の3面から地域政策を考えるのがゼミのテーマ。政策を実際に動かすには、特定の学問分野だけではうまくいかない。幅広い知識とコミュニケーション力が必要。身近な地域の課題に取り組み、それらを実体験できたことは、良い学びになったのではないか」。

ゼミで学ぶ政策評価はこれからが本番。増田さんは「プロジェクト全体を振り返り、効果を分析して改善点を明らかにしていきたい」と話す。